

して投稿してきたことがあります。使えなければ意味がないので、sin 波を与えて試算してみたところ全然スペクトル・ピークが出ない、どこか間違いがあるのでは、と返信したところ、このプログラムは気象じょう乱の解析には適しているが、sin 波だけの場合はピークがシャープ過ぎて出ないとのこと、注記しておきましょう、ということになりました。また別のスペクトル解析のプログラムを開発して投稿してきたとのこと、こちらで入力してテストしてみたのですが、どこかにミスがあるらしく走らない。そうしたら一束のパンチカードを送ってきて、使いたい方は丸山のところでコピーしてもらおうように、と加筆されました。カード時代の思い出です。

林さんは、スペクトル解析の気象学的利用を進展さ

せ、とりわけ GFDL の大循環モデルプロダクトの一連の研究に最も効果的かつ成功的に適用しました。林さんの解析方法を私も利用したことがありますが、直接間接に活用した研究は数多くあります。

昨年 (1998) 4 月、気候システム研究センターが開いた故新田教授追悼のシンポジウムで林さんと再会しました。あたかも新田さんが引き合わせてくれたかのようななつかしい集い、しかしそれが最後の出会いとなってしまう。今はご遺族に心からお悔やみを申し上げるのみです。

(丸山)

木田 秀次 (京都大学)

丸山 健人 (東京学芸大学)

国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

—国際学術交流委員会—

日本気象学会細則第 7 章「国際学術交流」に基づき、国際学術研究集会への旅費もしくは滞在費の補助を下記により行いますので、希望者は期日までに応募願います。

記

1. 対象の集会

A : 2000年 6 月 1 日～11月30日および

B : 2000年12月 1 日～2001年 5 月31日の期間外国で開かれる国際学術研究集会

2. 応募資格

日本気象学会会員で国際学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。ただし、ほかから援助のあるものは除く。

3. 募集人員 若干名

4. 補助金額 開催地域を考慮し最高15万円程度

5. 応募手続

所定の申請書類を期日までに国際学術交流委員会

(〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内日本気象学会気付) に提出する。大学院生は指導教官の推薦状を併せて提出する。

期日：A 2000年 3 月15日

B 2000年 9 月15日

注：申請書は最新の様式のを日本気象学会事務局から取り寄せるか、気象学会ホームページにあるものを使用すること。申請書の様式は断りなく変更することがある。古い様式の申請書で応募しても受理しない。

e-mail での申請は受け付けない。

6. 補助金受領者の義務

当該集会終了後30日以内に集会出席の概要を「天気」に掲載可能な形式で1ページ(2000字)程度にまとめ、報告書として委員会に提出する。